

孫とのコミュニケーション指南、 絵本の読み聞かせを楽しもう

孫の世話に積極的に参加する“祖父”を応援する
「ソフリエ養成講座」から、
孫ともっと仲良くなれる方法をお届けする連載企画。
今回は絵本の読み聞かせを楽しむ方法です。



文 草野恵子 イラスト 松本和美
企画協力 NPO 法人エガリテ大手前

その昔、絵本の出版が始まるよりもずっと前から「お話」は存在していました。昔の人々は便利な知識や知恵などを語り合うことで記憶にとどめ、また取り出しては語るということをずっとしてきたのです。共同体というのは、そうした「お話」の共有によって成り立ってきました。一方、現代社会の問題点として、人間関係の体験の場となる共同体の喪失ということが挙げられると思います。そうしたことを補う意味でも、「お話」の読み聞かせは大事なことだと言えるのです。

お孫さんへのプレゼントに絵本を選ぶ方は多いことでしょう。では、絵本の読み聞かせをお孫さんにしてあげたことはあるでしょうか？「そう言えば、孫にはまだ一度も読み聞かせたことはないな……」という方もいらっしゃるのでしょうか。さらに言えば、もしかするといそがしい両親も、絵本の読み聞かせをする時間があまりとれていないかもしれません。さあ、そんなときこそ祖父母の出番です！ぜひお孫さんの遊びの中に読み聞かせを取り入れてみましょう。

最初はどんなふうに読めばいいの



『ぐりとぐらのおきゃくさま』
 文：中川李枝子、絵：山脇百合子、福音館書店

名作絵本“ぐりとぐら”シリーズの中の1冊。本作は真っ白な雪が降り積もる森の中で、ぐりとぐらがサンタクロースに遭遇するお話です。かわいい動物がたくさん登場するので、文字の読めないお子さんにもおすすめです。

『わたしのワンピース』
 絵と文：西巻茅子、こぐま社

主人公はうさぎ。真っ白なワンピースを作ったうさぎさんが、それを着て出かけると思いがけない出来事が次々と起こるお話。美しい四季が描かれているため、季節感を自然な形で教えることができます。



か不安に思うかもしれません。でも大丈夫、上手に読む必要はありません。できるだけゆっくりと、いつもと変わらない感じで読んであげてください。ページをめくるときも、お孫さんの反応を見ながらゆっくりと。絵本の中身を一緒に楽しみながら、お話とその時間を共有することがなによりも大切です。読み終わったら「どうだった？」などと感想を聞いてみたくなるものですが、無理に聞き出す必要はありません。また、「いいお話だったでしょう」などと大人の感想を押しつけることもしないほうがいいでしょう。逆にお孫さんから質問があったら、ていねいに答えてあげることが大事です。

今回は40年以上読み継がれているおすすめ絵本を2冊挙げてみました。時間があつたら、お孫さんと一緒に書店に出かけて、読みたい本を探してみるのもいいですね。「次はこれを読んで！」とお孫さんが積極的になつたらしめたもの。きれいな絵と物語で構成された絵本には、大人の心も動かす力があります。ぜひお孫さんと一緒に心ゆくまで楽しんでみましょう。